

問題

<出題の意図>

課題文は、イギリスの学校におけるイスラエル・パレスチナ紛争の議論の難しさについて述べながら、議論の必要性和そのあり方を論じている。イスラエル・パレスチナ紛争に限らず、賛否両論のある問題について学校で議論することの困難さや意義について考えるきっかけを提供する文章である。

設問は、国際学部のアドミッション・ポリシーで求められている国際社会や地域社会が抱える課題への関心や基本的な知識、外国語（ここでは英語）の基本的な運用能力（ここでは主に読解力）、そして社会の諸問題についての意見を形成し、それらについて根拠を示しながら日本語でわかりやすく表現できる能力を測るものである。

<解答又は解答例>

問1（10点）：解答例

教師たちが賛否両論のある問題について教える際、あまりにも指導が少なすぎると感じていると、彼女はさらに述べた。

問2（5点）：①

問3（15点）：解答例

一般的には、多くの学校でイスラエル・パレスチナ問題について議論することを恐れているが、その教師の学校ではこの問題に関する集会の開催や、議論をするための安全な場所の提供を認めることとしたから。

問4（30点）：解答例

学校でなければ、生徒たちはソーシャルメディアなど他のいかなる方法や場所で情報を入手しようとするかわからないから。また、学校だからこそ生徒が批判的精神を養い、賛否両論のある議論において、相手に対して思いやりを示し、敬意を払うことの大切さを学ぶことができるから。

問5（40点）：解答例省略